

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400278		
法人名	有限会社グループホーム布衣乃郷		
事業所名	布衣乃郷 (2ユニット共通)		
所在地	静岡県袋井市堀越694-1		
自己評価作成日	令和5年10月14日	評価結果市町村受理日	令和6年 1月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和5年 11月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方が何でも言える心地良い家庭的な雰囲気な重なり、家族や外部の方など気軽に来訪出来る環境作りに取り組んでいる。コロナの影響はあるが、人混みを避けたり平日に外出をしたりして、なるべく閉じこもらない支援を行っている。カレー作りなど、切る、煮込む、炒める等、利用者の方に職員が付き添いながらすべての工程を行って頂き、半日かけて調理することを支援している。ホーム裏には畑があり利用者の方が育てた野菜をみんなで下ごしらえし、食す楽しみを作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍での生活が続き、外部からのボランティアの来訪や外食や外出などの支援に制限がかかってしまったが、ホーム内で出来ることを充実させようと発想を転換させ、ホーム裏の畑で苗を植え、収穫したきゅうり、なす、さつまいも、たまねぎ、ゴーヤなどを調理し、ホーム内に即席の寿司屋を作り、カウンターで利用者が好きなネタを食する場を設けた。ハロウィーンの行事では職員が率先して仮装を行い利用者を楽しませている。また何年も継続してきた業務であっても見直しや検討を重ね、理念である「自由にのんびりと、ぬくもりのある生活」を実現するにはどうしたら良いか常に考え、ミーティング等で意見を出し合い改善していきフットワークも軽く支援に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目に入る事務所・玄関・ホールに設置し、理念の意味を理解してもらい実践している。会議の前には理念を読み上げている。	職員が入居者の行動を過度に制限しないように配慮し入浴業務等に追われないように、理念である「自由にのんびりと」を体現している。なるべく本人が出来ることは行ってもらうように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時や行事等、日常生活を通じて交流している。地域活動は利用者と共に防災訓練にも参加している。祭典時にはホーム内に屋台が来訪する。地域の方が数人で雑巾を縫って届けてくれた。	パンの移動販売や屋台ラーメンなどが定期的に来訪され、入居者の楽しみの1つになっている。今年の町内の秋祭りでは、久し振りに御殿屋台や練りがホームを来訪し、入居者は大変喜ばれ賑わいの場となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて話し合い、少しずつ理解を得られている。地域の行事も参加できることはしている。顔見知りになることで声をかけて頂けることも増えてきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族・民生委員・班長さん、市職員の方の視点で意見を聞き、ミーティングやカンファレンス等で話し合い出来ることは、参加させて頂くなどしている。地域の回覧板を回してもらっている	コロナ禍で入居者家族や民生委員、班長など外部からの出席はないが、包括職員が出席している。入居者1名が参加し会議を見守ってくれている。回覧板を通して、地域とのつながりを継続している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者に出席して頂いて情報共有している。相談等は市の窓口へ直接行くか電話等で対応して頂いている。	生活保護を受給している入居者に関しては市役所に相談をしながら取り組んでいる。介護保険課の研修に職員1名が参加し、事故防止や安全管理について学んだ事を他の職員に周知をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない事情がある時には玄関の施錠する時もある。ペットからの転落、転倒の恐れがある時には床に布団を敷く、夜間の排せつ時の移動等はセンサーで対応、居室を居間の近くに移動等している。	毎月のミーティングの際に、夜間センサーを使用している入居者について見直し等の検討を重ねている。門扉は施錠しているが、玄関は開錠されているので、入居者が自由に行き来が出来るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で常に話し合い、報告・連絡・相談に注意し努めている。虐待等、見たり聞いたりした職員は、【黙っている、言えない】ということが無いよう必ず管理者、介護支援専門員、主任等窓口を広くして相談しやすいよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等は活用できていないが研修棟を通じて取り組んでいきたい。(申込み費用などの経済的なことや家族の協力など)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に示し、家族に説明・同意を得ている。また、不安や疑問点についてはその都度説明するよう努めている。何か聞きたいことがあれば、介護支援専門員直通の電話を伝えて、連絡が取れるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には日常の様子を伝える中で、話しやすい環境作りをし、家族の思いや苦情を聞き改善に努めている。時間の取れない家族には、メール等を利用してコミュニケーションが取れるように努めている	コロナ禍で玄関先ではあるが、面会時に家族からの意見を聴き取っている。面会が出来ない家族に対しては「布衣乃郷おたより」とは別に、本人の様子を撮影した写真を添付したメールを個別で送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングなどで意見や提案を聞く機会を設けており、意見・不満等があれば、その都度話し合うように対応している。定期的に個人面談を行い意見等を聞いている	職員から「もう1回基本のケアを学びたい」という意見から、オムツパットの使い方を再度、学習する研修を計画している。他にも入浴業務に関する意見を取り入れ、現在新しい入浴業務の体制を構築中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	離職防止の為に職員が働きやすい環境作りを意識し勤務調整、有給消化、福利厚生の実施を図る。また親睦会も職員全体で行っている。就業におけるアドバイスは社労士にいつでも聞ける体制を取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修で学んだ事は事業所内で報告している。ホーム内では話し合い等、その都度対応している。内部研修は行いやすいが、外部研修はもっと積極的に進めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	袋井市内のグループホーム交流会の参加や、市役所主催の介護支援専門員の集まりに参加し情報の共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常会話を多く持ち、その中からいろいろと聴きだしていくことに努めている。また、入居前に出来る限りご本人に内覧して頂き、安心して頂けるように説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築き、困っていること等を聞かせてもらい、入居者・家族が良い距離間で過ごせるように支援している。ラインやSNSでの連絡で気軽に連絡が取れるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容からニーズを把握した上で、自社他社問わず、必要な情報を提供している。グループホームに限らず、ご本人にとってが一番を考え伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは本人にやってもらい、本人が難しいことは一緒に行い支援している。日常生活の中で一人一人の能力にあった家事を自然な形で出来るよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と外出し外食を共にしてもらったり、家でのんびり過ごしてもらっている。家族に限らず、友達や知り合いにも自由に訪問して頂いている。当日の急な外出も自由に出かけて頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人が面会・来訪できるようにし、歓迎している。遠方の方との関係については手紙、年賀状を出せるように支援している。本人の様子を見ながら家族への電話も支援している	法事や墓参りに外出したり、親戚に会いに行くなど関係の継続を支援している。コロナ禍でなかなか会うことが出来ない方へ年賀状を出し、返事が届いて入居者が大変喜ばれたという事例があった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	長年の席など入居者の関係を見ながら変更をしている。2ユニットを活かし、両方のフロアへ入居者が自由に行き来してもらい、入居者同士の関係が広がるようにしている。入居者同士の助け合いも生活の中で日々見られている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族と関係を持ち、気軽に訪問して頂いたり、ボランティア等で来訪して下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向が話しやすい雰囲気作りに心掛けるようにしている。入居者の今までの生活や本人の希望を聞きながら、本人のやりたい事は興味を持ち、自分はまだ出来ると思える様に支援している。	本人の意向に反して、家族が「無理だね」と言われることでも実現に向けて支援している。ビールが飲みたいという方には、飲む量を決めて提供している。特に食べたいという本人の思いを実現できるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から聞き取りを行い、今までの生活歴・病気・嗜好などを記録に残して、職員がいつでも情報を見れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜を通して身体状況・生活状況を記録し、一人ひとりの現状についてミーティングなどで話し合い把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議で意見交換し、介護計画の見直しを行い、必要に応じたケアを敏速に実行できるように努めている。利用者ごとの担当職員より、より細かな情報を得ている。	職員を2つのチームに分け、入居者をそれぞれ振り分けて担当している。チーム制にしたことで、これまで以上に入居者を観察する眼が増え、些細な変化に気付くことができモニタリングに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや申し送り等で職員間で情報を共有し実践している。日常の支援の中での気づきや工夫はその都度職員間で話し合い提案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状把握を心掛け、本人にあったサービスであるよう努めている。また、通院や送迎など入居者と家族と話し合い、臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・外出・買い物等の関わりで支援している。地域の飲食出来る店に手軽に行けるよう支援している。近隣のカフェとも顔見知りになった		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回は定期的に往診して頂いており、本人及び家族の希望する医療機関があれば対応・受診している。急変あればその都度受診している	内服薬の多剤服用があった入居者に対し、主治医の往診により薬を減らし、整理することが出来た事例があった。眼科、耳鼻科に関しては、これまでのかかりつけ医を継続して受診している場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護によるバイタルチェック等で情報の共有をし、適切な受診や看護が受けられるようにしている。なるべく看護師出勤時に病院受診も付き添っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の意向を含め医療機関と退院前に話し合い、ホームでも出来る範囲の事であれば早期退院できるよう取り組んでいる。入院中は毎日面会に行くようにしていたがコロナで難しくなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、職員は今後について話し合い意向に沿ったケアを行うことを基本とするが食事、排せつ、入浴等のサービスが本人の状態で困難となった場合にはその都度家族に対応が難しくなってきたことを伝え家族と一緒に考えていくようにしている	コロナ禍になり、熱発や症状が出現した際にはすぐに受診を行うようにしており、重度化への対策を行っているので、看取りになる状況は生まれていない。今後は職員の不安や負担等も考えて、看取りを行う際の研修を実施することを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等のマニュアルにて対応の備えを行っている。応急手当や初期対応については会議等で話し合い、日々の会話の中で対応方法などを話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの防災訓練は行っているが、地域の防災訓練は本人の状態等もあり参加はなかなか難しくなっているが見学はさせて頂いている。家族本人の同意を得て防災名簿を作成し自治会長、班長に利用者の情報の共有をしている	夜間想定での防災訓練を行ったことで、2階の入居者の適切な避難方法という課題が明確になった。地域の防災訓練はコロナ禍で実施されていないが、再開した場合は以前のように入居者と一緒に参加するように考えている。	災害時、2階の入居者が避難する場合に、万が一エレベーターが停止してしまった場合を考えて、安全策として滑り台などの設置を検討する事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやコミュニケーションを重視し、一人ひとりの会話の中で入居者の人格を尊重するようにしている。	職員の言葉遣いに対しては特に注意を払っている。職員と入居者が親しい関係性を持つことは大事であるが、家族が聞いた場合でも違和感が無いかを考えながら、声掛けを行っていく対応を常に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩・ドライブ・買い物等の希望を聞き、自由に選択してもらい支援している。利用者と職員の会話を密にすることで話しやすい雰囲気にする事で思いや希望が表しやすくなるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて自由に暮らしてもらっている。(居室で休みたい人・外出したい人)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は本人の望む所があれば、そちらに行くように努めている。好みに合わせた髪型・服装を支援している。外出が難しい方は美容師に訪問で来て頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下処理(皮むき、根取り)、片付けをして頂いている。食事の好みも日々の会話の中から聞き出し、献立に取り入れている	ホーム裏の畑で入居者と一緒に苗を植え、収穫も行っている。きゅうりやなす、さつまいも、たまねぎなどを収穫して、食す機会があった。カレーを作る日には午前中から工程の分担を決めて、皆で調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量をチェックし、排便チェックをしている。月1回の体重測定をしている。飲みたい時にいつでも飲めるよう麦茶ポットとコップを食卓にセットしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自分で出来る方は見守り、困難な方は状況に合わせて支援している。月に1回訪問歯科による指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の状況に合わせて排便・排尿の声かけ誘導を行い、気持ちよく排泄できるように支援している。	自宅で夜間の尿失禁が多かった方が入居後、尿意を感じたらその都度トイレ誘導を適切に行うことで尿失禁が無くなった事例があった。入居者本人も気持ち良く過ごしており、満足感を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便をチェックし散歩をしたり水分を多く摂って頂くようにしている。また、乳製品や食物繊維の多い食品を摂取したりしている。散歩や廊下での歩行を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望も尊重し入浴を楽しめるように行っているが、基本の曜日は決まっている。入る順番はルーレットにて一番風呂等決めるようにしている	日曜日を除く週6日、午前、午後とも入浴が出来る体制を構築することで、今までよりも入居者がゆったりと入浴が出来るようになった。入浴剤を4種類用意しており、入居者が好みの入浴剤を選び楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れる場所を居室だけに限定せず、居間などでも横になったり、ホールにはソファ・椅子を置いて休める場所を設けている。玄関わきに低めの大きな椅子を設置し、自由に外に出て寛げるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用している薬の説明を書式に書いて頂いてスタッフに承知してもらい、服薬で状態が変化した場合は医師と連携をとり、変更時には申し送りにて確認把握するように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならぬよう、個々の出来ることを見極め役割を決めている。本人の出来ること・好きなことの中で、役割や楽しみを持てるよう支援している。ボランティアさん等にお礼で渡す作品を希望があればやっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行ったり、花を見に行ったり、外でも楽しめるよう支援している。買い物はその都度個別に対応している	市内外へドライブをしながらコスモスや海を見に出掛け、車内からではあるが景色を楽しんでいる。好きな時に玄関から出られる為、玄関先のベンチに座ってくつろぐ入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、少額ではあるが本人で管理してもらう。また、買い物時に支払いのみでやって頂いている方もいる。気軽に買い物が出るよう声掛けをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援しながら電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間・調度や設備・物品等も特別な物ではなく家庭にある一般の物を有し、居心地良く過ごせるようにしている。また、壁には外出時等の写真を掲示している	共有空間では、雛飾りや笹の葉など季節を感じる飾り付けを施している。今後はクリスマスツリーを飾る予定である。習字や塗り絵などを入居者の作品として掲示している。外出に出かけた際の写真をたくさん掲示しており、楽しい思い出となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士でフロアで過ごされたり、雑談されたりと自由に過ごすことができるように支援している。一人になれる場所は居室にて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各家庭で使用されていた物品を持ってきて頂き、また、自分の趣味を飾ったりしている。ベッドの位置等、各利用者の生活スタイルに合わせて移動、配置をしている	畳が敷いてある居室があり、ベッドも設置しているが、畳を好む入居者は毎日布団をベッドから畳まで移動させて休まれている。居室に冷蔵庫を設置し、好きなお茶を常備している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	勘違いしやすい場所に目印をし、部屋には分かるように大きく名前が書いてある。トイレは分かりやすいように大きな張り紙をしている		